

# 第1回 新型コロナウイルス対策プロジェクト会議 議事録

開催日時：令和3年12月22日（水）13：30～

開催場所：草津市立障害者福祉センター 2階

参加者：相談支援事業所「歩歩」：河地氏、むつみ園：植田氏、さぼ〜と楽：井上氏、草津保健所：小川氏・西川氏、草津市障害福祉課：國松氏、草津市発達支援センター：倉田氏、りらく：相馬氏、基幹コーディネーター：寺嶋、心身連：涌井、小枝、藤澤

欠席：滋賀県自立支援協議会：大平氏

## 1. 開会

資料の確認の後、涌井センター長よりあいさつ。

## 2. 新型コロナウイルス対策プロジェクト実施要領

別紙資料を参照。

## 3. プロジェクトリーダーの選任

涌井センター長が立候補、他に自薦・他薦もなかったので参加者の了承の上、リーダーに選任。

## 4. 協議事項

### (1) コロナワクチン3回目の要望書作成について

- ・前回の要望書を口頭にて紹介。
- ・事前にアンケートをしていたが各委員より特に具体的な意見はなかった。
- ・自立支援協議会の中で、訪問系の事業所従事者にも優先的に受けさせてほしいという意見が出ていたので、そこは盛り込む。

(意見)

- ・医療的ケアの必要な障害児と同居している家族も優先接種の対象にしてもらえないか？
- ・マスクのできない利用者がいる施設の職員も早く打ちたいという希望はある。
- ・現状では、医療従事者から優先的にという流れだが、保健所として把握している限り、それほど進んでいないという認識。
- ・訪問系や居宅の事業所もそうだが、放デイにおいても、学校が短縮授業になったりすると受け皿の機能としてリスクは高まるので、そこも考慮してほしい。

### (2) 施設連協定例会議（新型コロナウイルスの勉強会）の報告…むつみ園：植田氏より

- ・開催のきっかけとしては、事業所での対応で困った事例があり、濃厚接触者の定義であったり、マスクの種類や食堂の場所など、具体的に保健所に質問を聞いてみたかったというもの。
- ・事前に連協でアンケートも取った上で、12月7日に保健所の保健師さんが来てくれ、講義と質疑応答の勉強会を行った。

(保健所：西川氏からの補足説明)

- ・利用者がマスクをできなくても支援者がアイガード等をしていれば濃厚接触者になることを回避できる。
- ・そもそも、「接触者」という定義はなく、あるのは濃厚接触者で、15分以上マスクなしで、1メートル以内での接触。具体的には、食事の場面であったり、喫煙場所、あとは送迎で10～15分一緒に同乗しているなど。ただ、あくまで基準であり、先ほどのアイガードやシールドも、20～30分を超えて接触するような場合は、濃厚と判断されることもある。
- ・入浴の場面は、高確率で感染する事例があったのでリスクは高いといえる。なので、濃厚と特定されたら清拭に切り替えるなどの対策が望ましい(+できれば決まったヘルパーで)。

### (3) 在宅生活困難障害者等支援事業について

#### ▷草津市の状況

- 自立支援協として冊子とフローチャートを作った。周知の仕方を検討。
- 協議会の中で検討した事例では、8事業所のヘルパー事業所が関わっていた利用者が濃厚接触者になった。あるヘルパーは家には帰らずホテルに宿泊して対応した。その際の費用は県の事業で賄われた。
- 宿泊施設の現状としては、市から声をかけてはいるが、常に空けてもらっているわけではない。宿泊者が濃厚接触者に格上げされた場合にも前回のように利用できるかは難しい感触。
- 濃厚接触や陽性が特定された場合、本人の了承があれば、保健所と情報のやり取りは可能。

#### ▷他圏域の状況（大津市など）

- 本人の同意があれば、やまびこ支援センターや共生シンフォニーの職員が付き添いしている。
- 相談支援がセルフの場合について、大津の自立支援協に聞いたが、曖昧な返事だった。
- 支援者は、事業所経由で事前登録してもらおう。直接支援以外の支援も内容に含んでスタッフを募集。支援チームは3人以上。支援者の調整はやまびこ支援センターと大津市が共同で。
- ※参考として、湖東地域では、パソコンやスマホから登録スタッフの応募もできる。(49歳以下、基礎疾患のない健康な方という条件)

#### ▷他府県の状況（千葉市、大阪府堺市など）

- 千葉市：支援金の支給があり、固定費として15万円+1回9千円（1日3回まで）  
あと、相談支援員にも計画作成時に1件2万円がつく。
- 大阪府堺市：継続支援事業として1年くらい前から体制作りをしている。取り組んでいく中で課題も見えてきたとのことなので、今後、会議へ参画してもらったりして意見交換も可能。

(意見交換)

- ・施設の意見を聞いていると、自分のところの利用者であれば…という気持ちはあるが、支援者登録に向けて協力というのはなかなかできない現状がある。

- ・かなり以前に県が各事業所にアンケート調査をしたことがあったが、実際にはほとんど成り手がいない状態だったと把握している。
  - ・重心の方や行動障害の方など、障害特性によっては怪我が恐れもあり、そういう面でも普段関わりのない場合は協力しにくいということはある。
  - ・そもそも通院介助や在宅のサービスで従来のサービス自体が回っていない中での厳しさもある。
  - ・実際の対応ケースとして、ガウン等を着用したが、その後始末で困った。
- ⇒基本的には一般ごみとして出してOK（2重にして3日間は放置）。…保健所より
- ・県や市からコロナ関連でいろんなメール情報が来るが、見きれていないのと、もう少しわかりやすい書面で、簡単にファイルにはさみこめるようなものがあれば…。
- ⇒国からもリーフレットが出ているし、12月からは保健所でもホームページ上にさっきのゴミの出し方など、必要な情報を載せるようにしている。…保健所より
- ・人の事を考えるのであれば、手当の事も考えておかないと現実的でないし、こういう事例のこういう場合にはこの金額で…というような目安を明確にしてほしい。

## 5. 今後の予定

- ・次回会議⇒2月頃を予定。それまでに、支援者の事前登録に向けて、調査になるのか、いきなりの依頼になるのかわからないが、事業所向けに案内を出したい。その際、どのくらいの報酬があるのかをインセンティブとして明確にしておいた方がいいと思うが、市の想定としては、通常の支給+県の事業費ということになるのかなという見解。
- ・コロナワクチンの要望書は早急に作成し提出する。
- ・その他、有効な情報や資料を収集していく。

## 6. 閉会

## 草津市自立支援協議会 部会・プロジェクト活動報告

部会・PJ名	新型コロナウイルス対策プロジェクト会議	報告者	涌井
部会長	涌井		
副部会長	—		
参加機関 ・ 委員	相談支援事業所「歩歩」：河地氏                      むつみ園：植田氏 さぼ～と楽：井上氏                                      草津保健所：小川氏・西川氏 草津市障害福祉課：國松氏                              草津市発達支援センター：倉田氏 りらく：相馬氏    基幹コーディネーター：寺嶋氏		
事務局	心身連：涌井氏、小枝氏、藤澤氏		
活 動 報 告			
今年度のねらい	各機関でのコロナ対応してきた情報を集約し、在宅生活困難障害者等支援事業の在り方を考える。		
回数	開催日時	概 要	参加数
		(設置の目的) 新型コロナウイルス等の感染症対応について、草津市に居住する障害者及び障害児が家族等の支援により対応が困難な場合について、全体的な支援を行うための仕組みづくりを整えるため、草津市障害児(者)自立支援協議会が各支援機関と連携を図り速やかで必要な対応策の検討の場を設置する。 (プロジェクトで検討する内容) 新型コロナウイルス感染症等の対応に関する事(家族等関係者の支援が受けられない障害児者への支援者の確保・人材登録方法など)、その他必要な事項	
第 1 回	令和 3 年 12 月 22 日 13 時 30 分 ～ 15 時 30 分	<b>【会 場】</b> 草津市立障害者福祉センター <b>【内 容】</b> ●コロナワクチン 3 回目の要望書作成について ・前回の要望書を口頭にて紹介。 ・事前にアンケートをしていたが各委員より特に具体的な意見はなかった。 ・自立支援協議会の中で、訪問系の事業所従事者にも優先的に受けさせてほしいという意見が出ていたので、そこは盛り込む。 (意見) ・医療的ケアの必要な障害児と同居している家族も優先接種の対象にしてもらえないか？ ・マスクのできない利用者がいる施設の職員も早く打ちたいという希望はある。 ・現状では、医療従事者から優先的という流れだが、保健所として把握している限り、それほど進んでいないという認識。 ・訪問系や居宅の事業所もそうだが、放デイにおいても、学校が短縮授業になったりすると受け皿の機能としてリスクは高まるので、そこも考慮してほしい。	12 名

●施設連協定例会議（新型コロナウイルスの勉強会）の報告

- ・開催のきっかけとしては、事業所での対応で困った事例があり、濃厚接触者の定義であったり、マスクの種類や食堂の場所など、具体的に保健所に質問を聞いてみたかったというもの。

(保健所からの補足説明)

- ・利用者がマスクをできなくても支援者がアイガード等をしていれば濃厚接触者になることを回避できる。
- ・そもそも、「接触者」という定義はなく、あるのは濃厚接触者で、15分以上マスクなしで、1メートル以内での接触。具体的には、食事の場面であったり、喫煙場所、あとは送迎で10～15分一緒に同乗しているなど。ただ、あくまで基準であり、先ほどのアイガードやシールドも、20～30分を超えて接触するような場合は、濃厚と判断されることもある。
- ・入浴の場面は、高確率で感染する事例があったのでリスクは高いといえる。なので、濃厚と特定されたら清拭に切り替えるなどの対策が望ましい(+できれば決まったヘルパーで)。

●在宅生活困難障害者等支援事業について

▷草津市の状況

- ・自立支援協として冊子とフローチャートを作った。
- ・協議会の中で検討した事例では、8事業所のヘルパー事業所が関わっていた利用者が濃厚接触者になった。あるヘルパーは家には帰らずホテルに宿泊して対応した。その際の費用は県の事業で賄われた。
- ・宿泊施設の現状としては、市から声をかけてはいるが、常に空けてもらっているわけではない。宿泊者が濃厚接触者に格上げされた場合にも前回のように利用できるかは難しい感触。
- ・濃厚接触や陽性が特定された場合、本人の了承があれば、保健所と情報のやり取りは可能。

▷他圏域の状況（大津市など）

- ・本人の同意があれば、やまびこ支援センターや共生シンフォニーの職員が付き添いしている。
- ・相談支援がセルフの場合について、大津の自立支援協に聞いたが、曖昧な返事だった。
- ・支援者は、事業所経由で事前登録してもらおう。直接支援以外の支援も内容に含んでスタッフを募集。支援チームは3人以上。支援者の調整はやまびこ支援センターと大津市が共同で。

※参考として、湖東地域では、パソコンやスマホから登録スタッフの応募もできる。(49歳以下、基礎疾患のない健康な方という条件)

▷他府県の状況（千葉市、大阪府堺市など）

- ・千葉市：支援金の支給があり、固定費として15万円+1回9千円(1日3回まで)あと、相談支援員にも計画作成時に1件2万円がつく。
- ・大阪府堺市：継続支援事業として1年くらい前から体制作りをしている。取り組んでいく中での課題も出てきたとのことなので、今後、会議へ参画してもらったりして意見交換も可能。

(意見交換)

- ・施設の意見を聞いていると、自分のところの利用者であれば…という気持ちはあるが、支援者登録に向けて協力というのはなかなかできない現

		<p>状がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かなり以前に県が各事業所にアンケート調査をしたことがあったが、実際にはほとんど成り手がない状態だったと把握している。</li> <li>・重心の方や行動障害の方など、障害特性によっては怪我の恐れもあり、そういう面でも普段関わりのない場合は協力しにくいということはある。</li> <li>・そもそも通院介助や在宅のサービスで従来のサービス自体が回っていない中での厳しさもある。</li> <li>・実際の対応ケースとして、ガウン等を着用したが、その後始末で困った。 ⇒基本的には一般ごみとして出してOK（2重にして3日間は放置）。</li> <li>・県や市からコロナ関連でいろんなメール情報が来るが、見きれていないのと、もう少しわかりやすい書面で、簡単にファイルにはさみこめるようなものがあれば…。⇒国からもリーフレットが出ているし、12月からは保健所でもホームページ上にさっきのゴミの出し方など、必要な情報を載せるようにしている。</li> <li>・人の事を考えるのであれば、手当の事も考えておかないと現実的でないし、こういう事例のこういう場合にはこの金額で…というような目安を明確にしてほしい。</li> </ul>	
●今後の予定		<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援者の事前登録に向けて、調査になるのか、いきなりの依頼になるのかわからないが、事業所向けに案内を出したい。その際、どのくらいの報酬があるのかをインセンティブとして明確にしておいた方がいいと思うが、市の想定としては、通常の支給+県の事業費ということになるのかなという見解。</li> <li>・その他、有効な情報や資料を収集していく。</li> </ul>	
●総括		<p>第1回会議を受けて2月に第2回の会議を実施する予定であったが、1月～3月にかけての第6波の新型コロナウイルス蔓延の影響で開催できなかった。4年度のプロジェクトは各機関でのコロナ対応してきた情報も集約をしていきながら進めていきたい。</p>	



# 新型コロナウイルス等感染症対策プロジェクト設置要領(案) (令和3年度)

## (目的)

新型コロナウイルス等の感染症対応について、草津市に居住する障害者及び障害児が家族等の支援により対応が困難な場合について、全体的な支援を行うための仕組みづくりを整えるため、草津市障害児(者)自立支援協議会が各支援機関と連携を図り速やかで必要な対応策の検討の場を設置する。

## (プロジェクトで検討する内容)

新型コロナウイルス感染症等の対応に関する事(家族等関係者の支援が受けられない障害児者への支援者の確保・人材登録方法など)、その他必要な事項

## (会議の位置づけ)

草津市障害児(者)自立支援協議会のプロジェクト会議として位置づける。

## (構成員)

① 相談支援機関、②通所支援事業所等関係者、③居宅介護支援事業所関係者、④関係行政機関職員(滋賀県南部健康福祉事務所(草津保健所)、草津市障害福祉課)、⑤滋賀県自立支援協議会事務局、⑥草津市発達支援センター、⑦働き・暮らし応援センターりらく、⑧基幹相談支援コーディネーター、⑨NPO法人草津市心身障害児者連絡協議会等とする。必要に応じて医療関係者に参画を依頼する。なお、プロジェクトリーダー、副リーダーは構成員の互選により選任する。

## (事務局)

プロジェクトの事務を処理するため、NPO法人草津市心身障害児者連絡協議会に事務局を置く。

## (委任)

この要領に定めるもののほか、プロジェクトの組織および運営に関し必要な事項は、リーダーがプロジェクト会議に諮って定める。

## 附則

この要領は、令和3年〇月〇日から施行する。

## コロナ対策プロジェクト構成員

要領上の領域	所属	名前	備考
1	相談支援機関	河地氏	R3年度相談支援部会長
2	通所支援事業所等関係者	植田氏	施設連絡協議会代表（おつみ園）
3	居宅介護支援事業所関係者	井上氏	ヘルプ協議会代表（さぼ〜と楽）
4	関係行政機関職員	小川氏、西川氏	滋賀県草津保健所
	関係行政機関職員	國松氏	草津市障害福祉課
5	滋賀県自立支援協議会事務局	大平氏	アドバイザー（顧問）
6	（18歳以下の障害児の対応）	倉田氏	草津市発達支援センター
7	（就労関係） 一般就労をしている障害者への対応	相馬氏	働き・くらし応援センターりらく
8	（相談支援関係）	寺嶋	基幹相談支援コーディネーター
9	（委託相談支援事業所）	涌井他	NPO法人草津市心身障害児者 連絡協議会



令和3年7月21日

草津市長 橋川 渉 様

草津市障害児（者）自立支援協議会

## 新型コロナウイルスワクチン接種に関する要望について

平素は、草津市障害児（者）自立支援協議会の運営に御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症が蔓延する草津市において、居宅での継続サービスが必要な障害のある方が濃厚接触者となる事案が発生し、支援者の調整等に苦慮したところです。

入所施設等については、優先接種の予約が始まりましたが、障害のある方の生活を守るために最前線で支援を行っている訪問系サービス事業所従事者については対象外とされています。

このことに関連して以下のことについて、要望いたします。

### 記

1. 草津市は、基礎疾患を有する方や障害者支援施設等従事者について優先接種を行うとのことだが、その中で居宅や訪問系サービス事業所従事者が除外されている。入所施設等従事者と同じく早急に優先接種できるよう配慮願いたい。
2. 迅速なワクチン接種はもちろんのこと、視覚障害者、聴覚障害者、精神疾患などのある方の接種希望者に対しては、障害特性を考慮した環境設定を行うなどの接種体制を講じられたい。
3. 十分なワクチン供給量を確保のうえ、1回目接種のみならず安心して2回目接種が受けられるようにしていただきたい。

以上

草津市障害児（者）自立支援協議会 御中

草津市長 橋川 渉



新型コロナウイルス感染症ワクチン接種に関する要望について（回答）

時下、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃は、当市の保健行政に格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当市の新型コロナウイルスワクチン接種につきましては、国のワクチン接種優先者の順位に基づき、草津市役所、近江草津徳洲会病院を会場とした集団接種、地域のかかりつけ医での個別接種を順次開始しました。

現在は、ワクチンの供給量減少の対応として、地域のかかりつけ医での個別接種を一時休止しているところですが、供給にあわせて開始できるよう、医師会と調整しており、ワクチン接種を希望される全ての市民が御不安なく接種いただけるよう体制を整えたいと考えております。

つきましては、貴会から御要望いただいております事項について、下記のとおり回答いたしますので、これからも貴会および関係団体の皆さまの御協力をいただきたく、よろしく願いいたします。

## 記

1. 障害者支援サービス事業所従事者（居宅・訪問系サービス）への優先接種について  
本市では障害者支援に係る居宅・訪問系サービス事業所従事者への優先接種は実施しておらず現時点でその予定もございませんが、一方で滋賀県広域ワクチン接種センター（大規模接種）では、接種対象者に「福祉職員」を含んで実施しておりますので、そちらでの接種についてご検討いただければと存じます。

## 2. 障害特性を考慮した環境設定等の接種体制について

集団接種会場においては、手話通訳者の同行や、サイン表示、コミュニケーションボードなどのツールを用いた対応により、障害特性がある方におかれましても、安心してワクチン接種を受けていただけるように配慮を行っております。市障害福祉課や貴会等の関係団体の御協力をいただきながら、さらに効果的な対応ができるよう努めたいと考えておりますので、お気づきの点等ございましたら、御指導いただきますようお願い申し上げます。

## 3. 確実な2回目接種の機会の確保について

国から提示されたワクチン供給量に基づき、1回目を接種された方が確実に2回目接種ができるよう、ワクチン接種の機会について調整し、接種を希望される皆さまに接種を実施できるよう進めてまいります。

担当部署	草津市役所健康福祉部 新型コロナウイルスワクチン対策室
担当者	沼田・倉野
連絡先	TEL：077-561-0184 e-mail：wakuchin@city.kusatsu.lg.jp

## 令和2年度 新型コロナウイルス感染防止対策について（草津市障害児（者）自立支援協議会）

### 1. 南部保健所（圏域の動き）

令和2年9月23日（水）【新型コロナウイルス感染防止対策会議（圏域）：南部保健所】  
滋賀県新型コロナウイルス感染症にかかる在宅生活困難障害者等支援事業の説明等

### 2. 草津市障害児（者）自立支援協議会

南部保健所での会議を皮切りに、新型コロナウイルス感染症にかかる在宅生活困難障害者等支援事業の対応を中心に下記のような対応を行った。

#### (1)関係機関の緊急連絡先の確認【令和2年12月末：FAX】

市内に居住する障害者が年末年始に新型コロナの感染に係る緊急対応が必要になった時に、通所先などの関係機関の職員が緊急に対応する場合を想定し、連絡先の確認を行い迅速な対応に備えた。

#### (2)運営協議会での協議【令和3年1月22日（金）：オンライン】

- ・新型コロナウイルス感染症にかかる在宅生活困難障害者等支援事業の理解と進め方
- ・職員派遣までの流れの確認（フロー図）
- ・スタッフの登録方法について（他圏域の取組み紹介）
- ・障害者及び家族が備えるための手引書の紹介（他圏域の手引書作成の紹介）
- ・福祉事業所向け感染防止対策研修会の開催について
- ・課題の検討

①福祉事業所等への情報発信・研修の必要性 ②プロジェクトの立ち上げ（⇒コロナ対策は迅速性が求められるため発足に時間を要するプロジェクトの立ち上げは見送る。） ③18歳未満の障害児は発達支援センターが担当する。④保健所との連携は障害福祉課が担当する 等

#### (3)新型コロナウイルス感染症対策研修会【令和3年2月17日（水）：対面とオンライン配信】

講師：社会医療法人誠光会 感染管理認定看護師 中村こずえ氏

内容：「濃厚接触者に接する際の感染対策」講義と実技（防護衣の着脱手技）

参加：オンライン参加：18事業所、対面参加人数13人

#### (4)草津市障害児（者）自立支援協議会定例会議【令和3年3月18日（木）：オンライン】

新型コロナウイルス感染症対策について

- ・新型コロナウイルス感染時の支援手順の手引き（草津市版）の説明
- ・新型コロナウイルス感染疑い発生時の対応フローの説明
- ・スタッフ派遣要請の対応（フロー図）の説明
- ・意見交換

#### (5)新型コロナウイルス感染時の支援手順の手引き（草津市版）の作成と発送【令和3年3月30日】

添付書類①「新型コロナウイルス感染疑い発生時等の対応フローについて」

②「職員派遣までの流れ（フロー図）」

発送先：草津市障害児（者）自立支援協議会構成機関等の福祉サービス事業所等

配付部数：86事業所：約900人分